

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200421		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム鳴門		
所在地	鳴門市撫養町木津445-1		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事への参加、婦人会、ボランティア、保育園など、地域との交流を積極的に図っている。また、季節感を感じていただけるよう壁面飾りの工夫や、行事の開催を行ったり、外出支援、日頃の散歩などで屋外へ出る機会を持てるよう支援している。日課や趣味活動、ケアの場面などでは、心身状況に応じて能力を発揮できるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、前回の自己評価・外部評価結果を基に、理念(自由・尊厳・歓び)の具体的な取り組みを目標と定めて日頃の実践に取り組んでいる。職員は、利用者のその日の体調や気分で個別に過ごすことができるよう、自由な時間を設けるなどの工夫を行っている。利用者の希望や自己決定を尊重し、職員が一方向的に喋ったり、決め付けたりするのではなく、ゆっくりと返事を待つことを心がけるようにしている。利用者一人ひとりの趣味を支援しており、一人ひとりの歓びを支えることに重点をおいたプログラムを用いている。運営推進会議には多種多様な出席者を得ており、事業所の運営について話し合っている。婦人会や老人会、生け花、書道の指導者、ボランティアの来訪が多く、地域と盛んに交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り後に、理念と実践目標を読み上げ、職員全員が常に意識し、実践しているよう努めている。	管理者と職員は、毎朝、理念と実践目標を唱和し共有化を図っている。つねに理念等を意識することができるよう、名札の裏面に記載して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを行ったり、地域の行事に参加させて頂き、交流を行っている。散歩の際等も挨拶を交わし、畑や庭を見せていただくこともある。	事業所として、地域の学校や老人会、婦人会等の行事に参加している。また、事業所の行事に地域住民を招待し参加してもらっている。地域の集會場で認知症について話し合い、理解を深めてもらう取り組みも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や老人会の場で認知症について話をさせて頂き、地域の方に認知症を知っていただく機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、目標達成計画の取り組み状況やその時期に応じた議題、問題点、現状報告を行っており、出席者の方々に意見を頂いている。それを職員に伝達し、サービスに活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。消防署員や警察官、市社会福祉協議会等の出席を得て話し合っている。議事録は詳細に記録されており、出された意見等を運営面に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の取り組みや現在の状況等を報告している。分からない事や困った時には、窓口や電話ですぐに対応してもらっており、連携が図れている。	毎月、市担当窓口を訪問し、事業所の取り組みなどを報告している。その際、市職員からアドバイスをもらっている。介護相談員や市のポイント制ボランティアの来訪もあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催し、職員が理解して実践していくよう努めている。日中の玄関は開錠を行っている。	職場内で身体拘束の廃止に関する研修会を行い、全職員が禁止の対象となる行為を正しく理解している。外に出ようとする方はいるが、日中は施錠をすることなく、見守りと寄り添った支援を行うことによって利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度、虐待に関する研修を受け、どうして虐待が起こるのかという原因を職員間で考え、更に強く意識を持ってケアに当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行っている。知識を高め、相談があった場合にはすぐに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけて、入居者様や家族様の不安を解消できるよう努めている。解約時はトラブルになりやすい為、納得していただけるまで、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へアンケートの実施を行っている。また、面会に来られた際など話し、意見、要望など気兼ねなく話せる様な環境、雰囲気づくりに努めている。	家族アンケートを実施し、事業所への要望等を聞くようにしている。また、家族の来訪時にも希望等を話してもらっている。利用者や家族から出された意見等は、管理者と職員間で話し合い、改善の経過や結果を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、その際に気づきや意見の提案を行い、運営に反映させている。職員間のチームワークを強化、普段よりコミュニケーションを大切にしている。	管理者は、職員会議の際に職員の気づきやアイデアを聞き、運営面に取り入れている。会議のときに話し辛いことは、個別に面接や書面で意見を把握するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課を行っている。また、職員一人一人に担当の役割を設けることにより、責任感ややりがいなど各自が向上心を持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を行っており、法人内外の研修も受ける機会を設けており、知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修に参加する事により、他施設との交流を図ることができている。その場で情報収集や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学を勧めている。直接本人様と面談を行い、要望や不安なことはないか、伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、契約時には、十分聞き取りの時間を設け、少しでも不安感を軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する前に、本人様や家族様がどのような支援を必要としているのか伺いながら、対応している。状態によっては、別のサービスを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に支援するのではなく、昔の話を聞いたり、得意分野を見つけ個々の能力を発揮できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた時などに、近況報告を行っている。状態が変化した時には電話での報告も行っている。家族様が通院の協力をして下さる方もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様から馴染みの場所を聞いて、外出できるようにしている。近所の友人に面会をお願いしたり、地域行事で知り合いと再会することもある。	事業所では、利用者が住民として地域と関わることができるよう、様々な行事や活動に参加している。家族の協力を得たうえで、一人ひとりの馴染みの商店での買い物や美容院へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が安心して、楽しく過ごしていただけるように配慮している。トラブルになった場合には仲裁に入り、お互いの意見を聞くようにしている。また、食卓等の席順にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されてもお見舞いに行ったりしている。退所される場合でも、退所後の相談に乗ったり、必要に応じて連絡を取っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望がある方はもちろん、意思表示できない方にも生活歴や家族様からの聞き取りでヒントを得て、対応している。	利用者の言葉や些細な表情の変化等から、意向を把握するよう努めている。意思の疎通が困難な方には、家族や関係者等から情報を得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中からその方の要望をくみとっている。家族様にもお聞きしたりしている。また、センター方式の見直しも行い、意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を常に把握し、普段と違うような事があれば、すぐに申し送りを行うようにしている。カンファレンスを行い、状態が悪化しないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様、職員、ケアマネが話し合いを行い、ケアプランを作成している。また、医師や看護師にも状態報告を行い、その方に適したケアプランが作成できるようにしている。	本人や家族の希望、職員と関係者の意見を反映した介護計画を作成している。計画の設定期間内であっても、本人や家族の要望や状況の変化に伴い、モニタリングに基づく計画の見直しを行い、現状に応じたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化や気づきを申し送りノートに記入したり、電子カルテに入力している。口頭の申し送りに密に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事、急な病院受診や職員の人数を必要とする行事等、必要に応じて職員の勤務を調整している。要望があれば、在宅や希望の場所に送迎を行うこともある。		

自己	外部	項目	2階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的ボランティアに来訪をお願いしている。地域行事への参加や移動図書館を利用している。推進会議で交番の方とも関わりがあり、何かあった時の協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員がかかりつけ医の病院に付き添いを行っている。受診の際、Drにしっかり状態を伝える他、不安がある時は電話で指示をいただくこともある。	利用者一人ひとりのかかりつけ医と事業所の協力医による医療を受けることができるよう支援している。専門医の受診時には、家族と職員が同行し、日ごろの様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等があれば、報告し、受診の必要性の判断や指示、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、可能な限り職員が面会し関わりを行い、認知症状の緩和や不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について勉強会にて学び、理解を深めるよう努めている。契約時には、看取りや重度化についての説明、同意を得ており、早い段階から本人様、家族様と話し合っておられる方も多くおられる。	契約時の段階で、本人や家族に“重度化した場合における指針”を示し、事業所が対応できるケアについて説明している。利用者や家族の希望に応じて、随時、意思を確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの勉強会にてAEDの操作手順を学び、急変時にも速やかに対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練に実施し、消火器の使用方法や避難誘導の訓練を行っている。推進会議で議題に上げたり、近隣の方々にも参加していただいております。協力体制を築いている。	消防署の指導のもと、地域住民の協力を得て、利用者とともに年2回の避難訓練を実施している。災害時に備え、物品や備品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や友達口調にならないように注意している。排泄面の声掛けや間違いを指摘するような事を大きな声で皆の前で言わない等、一人一人のプライバシーと尊厳を守る様配慮している。	職員は、利用者に敬意を払い接するよう心がけている。本人の気持ちを考えてさりげなく声をかけ、自己決定しやすいよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を持つ時間を設けることで要望を聞き取りやすくする工夫をしている。一方的に職員が喋るのではなく、ゆっくり返答を待つことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物や縫い物、ぬり絵等の趣味や、家事の手伝い、その日の気分や体調で居居で過ごされる方がおられる等、集団レクリエーション以外にも個別に過ごす時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホール、自室にも鏡が取り付けられている。着替えの服も、自分で好みの物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお盆配り、食器洗い等を中心に手伝っていただいている。	同一法人の運営する他サービス事業所の管理栄養士が献立を作成している。日中は、併設事業所の厨房で作った食事を運び込んでいる。朝・夕食は事業所で作っているが、利用者の好みに合わせてアレンジすることもある。利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病などの持病がある方には、ご飯の量を控えている。食事、水分量はチェック表を記入し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回、口腔ケアを行っている。口臭がある方には洗口液を使用したり、必要に応じて歯科受診を勧めている。		

自己	外部	項目	2階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パット、紙パンツ等は状態に応じて使い分けをしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。本人の状態に応じて、パットや紙パンツを使い分けている。日中は利用者全員がトイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつには便秘に良い物を選び、提供している。日中は、こまめに水分をとっていただき、散歩や便秘体操を実施し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や血圧、その日の調子を見ながら、個々のタイミングに合わせて入浴を勧めている。	毎日、入浴することができるよう体制を整えている。入浴への抵抗がある利用者の心情を察し、穏やかな言葉で対応するなどして入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んでいただけるよう、日中は積極的に活動している。個人の状態に合わせて、運動量を調整している。昼寝をさせている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の用法や用量を把握し、変更等の場合には申し送りを行っている。服薬のミスがないようチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、食器洗い、お盆拭き、花の水やり等の日課をそれぞれの能力に応じて手伝っていただいている。また、趣味活動支援として、園芸やカラオケ、手芸等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なじみの場所や希望の場所を聞き取り、外出支援を行っている。家族様の意向を伺ったり、地域の行事にも参加している。	自分で歩くことができる人や車いす、職員に支えられながらの利用者も毎日のように散歩を楽しんでいる。運動会等の地域行事に参加したり、季節の花見や初詣に出かけたりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診の際に、自分で支払いをされている方もおられる。ほとんどの方がお金を手元に所有していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様には年賀状を出したり、本人様の希望があった場合、電話を掛ける等の対応を行っている。家族様から電話が掛かってくることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に応じた壁面飾りや花を生ける等、室内でも四季を感じられるような環境作りを心掛けている。また、温度や湿度、臭いにも注意している。	事業所内は空間の区切りを無くしており、広々している。台所前には食卓が並んでおり、壁面には季節の飾りつけや行事の写真等を飾っている。共用空間を清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりとテレビを鑑賞したり、畳スペースでくつろいでいただく等、広い空間を思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具等、馴染みの物を持参していただいている。また写真や思い出の品を居室に飾ったりしている。	事業所では、洗面台に化粧品が置いてある部屋や、籠一杯に毛糸の玉が入っている部屋、家族が寛げるように椅子と机を設置している部屋等、一人ひとりの思い出の品を置くなどして、居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかりにくい方には、居室前に目印を付けたり、大きく名前の貼り紙をしている。ベットの位置を変える等、活動しやすい環境作りをしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝申し送り時に、管理者、職員で復唱し、実践につなぐことができるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人会の催しや、お祭り、イベントに参加し、交流を深めている。お地蔵様の前掛けを縫い、奉納している。ボランティアや保育園との交流も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会や自治会において、認知症の話をさせていただき、理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日々の取り組み状況などを報告し、意見やアドバイスをいただき、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に市の職員の方が出席しており、そこで日頃の取り組みを伝えることができている。必要に応じて相談したり、アドバイスをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施し、知識を深めている。日中は玄関を開放したり、帰宅願望がある方には、そのタイミングで外に出ることができるよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して虐待に関する知識を深め、言動には日常的に注意している。介護相談員さんの受け入れを行うことで第三者からの視点を持ち、事業所内の風通しを良くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を実施しており、制度についての知識の向上に努めている。また、推進会議などでも議題に取り上げ、地域の方にも幅広く知っていただける様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が十分な時間をとり、丁寧に説明を行うことで、利用者様や家族様の同意、納得をいただいている。また、改定の際にも十分な説明を行い、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケートの実施や意見箱の設置している。また、日常会話からも汲み取る事と信頼関係を大切にすることで意見を貰い易い雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での話し合い、個別での申し送り、気付いた事の報告など、その都度、意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の個別の状況や実績などの把握に努めている。また、職員の個々の能力に応じた職場環境の整備をすることで、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修に積極的に参加しており、また、勉強会などを行うことで、職員の知識の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修等も積極的に参加することで交流を図ることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方が過ごしてきた生活習慣をできるだけ継続していける様に、入居前、入居時にできる限り時間を取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、特に注意して欲しい事や困っている事、不安に思っている等を中心にお聞きし、職員間で情報を共有し、支援に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの時点で本人様や家族様の聞き取りやケアマネの情報を元にグループホームでのサービスを必要としているかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の過ごしてきた生活状況等から、昔の事をお聞きし、若い世代では知らない生活の知恵を教わったり、個々の能力を發揮していただきながら、生活していただけるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、一方的にサービスを提供するだけでなく、家族様にも協力をお願いする事と関係性等にも配慮しながら、できる限り本人様との関わりを持てるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の宗教や自宅、馴染みの店等へ外出している。地元に出かけると知り合いの方から声をかけて頂くこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席順には十分配慮しながらも、レクリエーション等では職員は間に入って関わる機会を持つようにしている。入居者様同士、それぞれが思いやり声を掛け合っている姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居された場合でも、お見舞いに行ったり電話したりしている。契約終了後も必要に応じて、家族様からの相談にも応じる等、柔軟に対応をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員で毎月聞き取りを行う他、センター方式の見直しを定期的に行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やコミュニケーションを通して、継続的な把握に努めている。気付いたことは、センター方式に記入し把握するようにしている。意思表示が難しい方には家族様にお聞きし、ヒントを得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態に応じた日課や個別レクを選んだり、家事を手伝っていただいたりしている。また、些細な変化や行動でも申し送りをし、状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施し、職員間で話し合いを行い、介護計画に反映している。家族様や担当医の意見を聞きながら、現状に即したケアプランを作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活が見えるような、できるだけ詳しい記録を行っている。改善すべき内容がある場合は、カンファレンスを行い、情報を共有することでケアの統一に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・ドライブ・買い物などご本人やご家族の意向や要望を伺いながら、できる限り柔軟に対応している。また、馴染みの場所への外出も積極的に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字や踊り等のボランティアの受け入れを行っており、毎回入居者様も楽しみにされている。また、避難訓練等の際には消防署の方に来ていただき、話をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様や、入居者様が希望する医療機関と連携を図り、受診を行っている。馴染みの病院、先生の名前を覚えており、話をして下さる方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや体調面の変化を日々報告し、何か変化があればすぐ報告し、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ職員が面会に行ったり、家族様からお話を伺ったりと状態を確認している。医療のソーシャルワーカーとも連携を図り、入院生活から退院まで円滑にサポートできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、状態が変化した場合等、利用者様や家族様の希望を聞き取りできる限り希望に沿った支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・対応の仕方は職員の見やすい位置に掲示している。また、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、入居者様も一緒に参加していただいている。近隣の方にも参加していただいたり、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄への声かけの仕方、居室等のドアの閉め忘れ、介助中のプライバシーの確保は日頃から職員間で意識して、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定しやすいような声かけの仕方や返事を待つ等、本人本位に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日であっても気分が乗らなかつたり、体調によっては、レクには参加しない等、本人の意思を汲み取り、自由に過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は、身だしなみを気にされる方も多く、外出時、入浴前等、自分の好きな服を選んでいただくようにしている。外出やイベント前にお化粧される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事に楽しみを持たれている方が多く、おやつ作り、食事の準備、月に1度の外食(希望の方)など楽しんで頂けるよう支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人一人の栄養管理の為、食事量や水分量をチェック表を記入している。また、刻み食等の状態に応じた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、自分できる方は見守りを行いながら、清潔保持に努めている。また、義歯などは自分で管理できない方は、職員が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することで、本人様の状態に応じたトイレ誘導を行っている。介助が必要な状態であってもできるだけ、トイレでの排泄(介助)を勧めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時と15時に便秘に効果のある食材を使って、おやつや飲み物を提供している。水分量や運動量にも注意している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方も多いが、入浴が苦痛にならないように、その日の体調やご本人様の意向を尊重した支援を行っている。入浴を希望される方にも、要望に応じる様にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごしていただいたり、見守りのもと一人で過ごせる時間も大切にしている。昼食後、昼寝をとられる方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルに保管して、すぐに確認できる状態にしている。薬の変更は申し送りを行い、周知徹底を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味や職歴等からヒントを得て、グループホーム内での趣味同好会に参加していただいたり、外出に出掛けたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望や馴染みの場所を聞き取り、意向に沿った形で外出支援を行っている。家族様に了解を得て、自宅の方に出かける方もおられる。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望で、おこづかいを自分で所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていたいたり、電話で家族様とお話しされる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り付けは、季節感を出せるように工夫している。夜間も睡眠を妨げないような照明の具合や室温等にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	マガジンラックを置き、いつでも雑誌が読めるようにしたり、ソファでテレビを見たり、談笑をしたりできる空間がある。広い共用スペースでは、レクリエーションを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅の雰囲気に近づく様に、思い出のある物を持参していただいている。また、自分で作った作品を掲示されている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールに転倒の原因になるものを置かないようにし、安全に移動ができるようにしている。自分の居室が分かりにくい方には、目印を付けたりしている。		